

法人（事業所）理念		・障害のある就学児が、放課後又は長期休み等の学校休業日に、安全・安心に過ごせる居場所づくりを推進する通所施設です。 ・利用児それぞれの個性に合わせた生活能力向上のための療育を行い、学校教育と相まって利用児の自立を促します。											
支援方針		・アセスメントから、児童・生徒の多くはASDであり、知的な遅れや神経症の障がいもあり、これまで注意を受けることが多く褒められることが少なかったと考えられます。そこで、利用児の個性を生かした視覚支援を行い、得意なことを褒めて自尊感情を高め自己決定力を育てます。特に、利用児の実態に合わせた言葉の学習に力を入れます。 ・なないろの支援目標は、小学生は『遊び』『学習』『QOL』で中学生・高等部生は『作業・余暇』『学習』『IADL』です。 5領域については、『遊び』と『作業・余暇』が主に運動・感覚と人間関係・社会性、『学習』が認知・行動と言語・コミュニケーション、『QOL』と『IADL』が健康・生活と人間関係・社会性からと2つずつの支援目標を設定しています。 ・利用児のニーズに基づく個々の課題を把握し、課題達成のための個性に合った支援計画を作成し、年間2回以上のモニタリングにより適切な支援を提供します。											
営業時間		・平日	10	00	18	30		送迎実施の有無	各校への迎えあり	自宅への送りなし	土曜・学校休業日は送迎なし		
	・土曜	8	時	30	分から	16	時					30	分まで
	・長期休暇	8		30		17						00	(延長1時間)
本人支援	支援目標と5領域							支援内容					
	作業・余暇 遊び	運動・感覚		・姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 ・身体移動能力の向上 ・保有する感覚の活用 ・感覚特性への対応				・ラジオ体操やストレッチ、なわとび、バランスボールの姿勢保持、散歩、音楽を流しダンスを支援する。 ・いろいろなボールを投げたり、ラクロスやバドミントンなど目と手の協応運動をさせる。 ・ねじ回し、タオルたたみ、ボールペンの組み立てなどの作業学習とボタンはめ・ビーズ通し・洗濯ばさみなど指先の巧緻性を高めるトレーニングを一定時間課題にさせる。 ・感覚の特性を理解し、必要に応じて個別対応を行い視覚・聴覚等に負担をかけない環境を提供する。					
		人間関係・社会性		・遊びを通じた社会性の発達 ・仲間づくりと集団への参加 ・他者との関わり（人間関係）形成				・対面遊びブロック（ドミノ、ジェンガ等）やカードゲーム（トランプ、カルタ等）で仲良く遊ばせる。 ・小集団遊びカードゲームやボーリング、輪投げ、長縄跳び等でルールを守って遊ばせる。 長期休みの外出行事等で、事前に集団行動の約束を話し担当支援員の指示に従い安全に行動させる。 ・季節の行事（七夕、ハロウィン、クリスマス、お正月等）のイベントへの準備・参加・片付けをさせる。					
	学習	認知・行動		・認知の特性についての理解と対応 ・対象の外部環境の適切な認知 ・適切な行動の習得 ・行動障害への予防及び対応				・運筆、数、形、言葉、知識、記憶等の得意な学習行い、工作や絵を描くことを評価され自己肯定感を高める。 ・カレンダー、誕生カード、野菜の収穫、季節の行事を計画し、毎年の経験を通してこだわりを支援する。 ・手伝い（コップ洗い・床拭きなど）を褒め、長期休みの買い物学習で意思決定力や金銭の管理能力を育てる。 ・広報誌で事前に予定を伝え、適切な視覚提示を行い、興味関心を高め安心感を持って行事に参加させる。					
		言語・コミュニケーション		・コミュニケーションの基礎的能力の向上 ・言語の形成と活用 ・状況に応じたコミュニケーション ・個別の言語の受容と表出と読み書き能力の向上				・言葉だけでなく、身振り手振り、手話、絵カード等を使って個々に合わせた意思の疎通を図る。 ・挨拶や「ありがとう」「ごめんなさい」などコミュニケーションを通して体系的な言語を身に付けられる。 ・『なないろタイム』で司会や自己紹介を行い、行動や気持ちなど場に応じたプレゼンテーションができる。 ・絵カードや絵本、教科書等で語彙を増やし、繰り返し読み書きを支援して言葉掛けを増やし自発語を促す。					
	QOL IADL	健康・生活		・健康の維持・改善 ・生活習慣や生活リズムの形成 ・基本的生活スキルの獲得 ・生活におけるマネジメントスキルの形成				・定期的な心身の把握（毎回体温測定・気分の記録）に努め、37.5℃以上等の場合家庭へ連絡する。 ・生活習慣を身に付け、生活リズムを規則正しく送れるよう『なないろの予定』に添った生活を提供する。 ・基本的生活スキル（食事、排泄、睡眠、衣服の着脱、身の回りの整理・清潔等）の個別の課題を支援する。 ・使用する物（靴箱、棚、机等）に名前明示し、構造化による生活環境を調え生活の自立を支援する。					
人間関係・社会性		・アタッチメント（愛着）の形成と安定 ・自己の理解と行動の調整 ・情緒の安定				・担当支援員は、利用児の興味・関心を把握して得意なことを一緒に楽しみ利用児との信頼関係を深める ・利用児が好むことや得意なことを沢山支援し、苦手なことも助力を求めてチャレンジすることを励ます。 ・利用児の言動や体調から気分や気持ちを把握し、落ち着かない時は環境や担当を工夫して個別の支援をする。							
家族支援		・お迎え時に、療育の様子を話し家庭での様子等も聞き共通理解を図る。 ・ご家族の相談や悩みは個別の相談時間を設けて、解決に協力する。 ・広報誌『れいんぼう』で活動を知らせ、有益な情報提供をする。						移行支援		・小学校入学に当たっては保育所・幼稚園との協力と相談援助を行う。 ・中学・高校生へは、将来の生活をより具体的に実体験できる少人数の職場見学会を保護者の希望に添って随時計画・提供する。 ・保護者の同意の上、卒業後の移行先へ情報提供と連携を行う。			
地域支援・地域連携		・利用児と家族を取り巻く関係機関やサービス等を把握し連携する。 ・各校及び関係機関へ広報誌『れいんぼう』を配布し情報連携する。 ・小児科医や福祉関係者へ『れいんぼう』の原稿を依頼し情報提供頂く。						職員の質の向上		・毎月第1水曜日の支援会議で、共通理解に立った行事の内容・支援目標や支援方法を検討しケース会議も行い、研修の情報を提供する。 ・毎日の打ち合わせで、職員が協力して行事や療育の準備を行う。			
主な行事等		・学校放課後は、各校へ迎えに行きアルコール消毒・検温を実施します。登所後、挨拶、靴・荷物や上着の始末、手洗い・トイレ等の後、宿題・自主学習・なないろプリント等の学習を行い、「なないろタイム（自己紹介・予定の確認・おやつ・誕生会等）」の後、各月の季節に合わせた七夕・ハロウィン等の行事や工作や園芸等の療育をします。 午後5時からは、持ち物を整理し、YouTubeやビデオ、読書、おもちゃ等各自自由に過ごして家族の迎えを待ちます。 ・学校休業日は、午前中に買い物学習・GoTo一歩・科学館利用等の利用児が好む外出行事を計画し、午後にYouTubeやビデオのリクエストタイムと宿題支援の時間を設けます。											